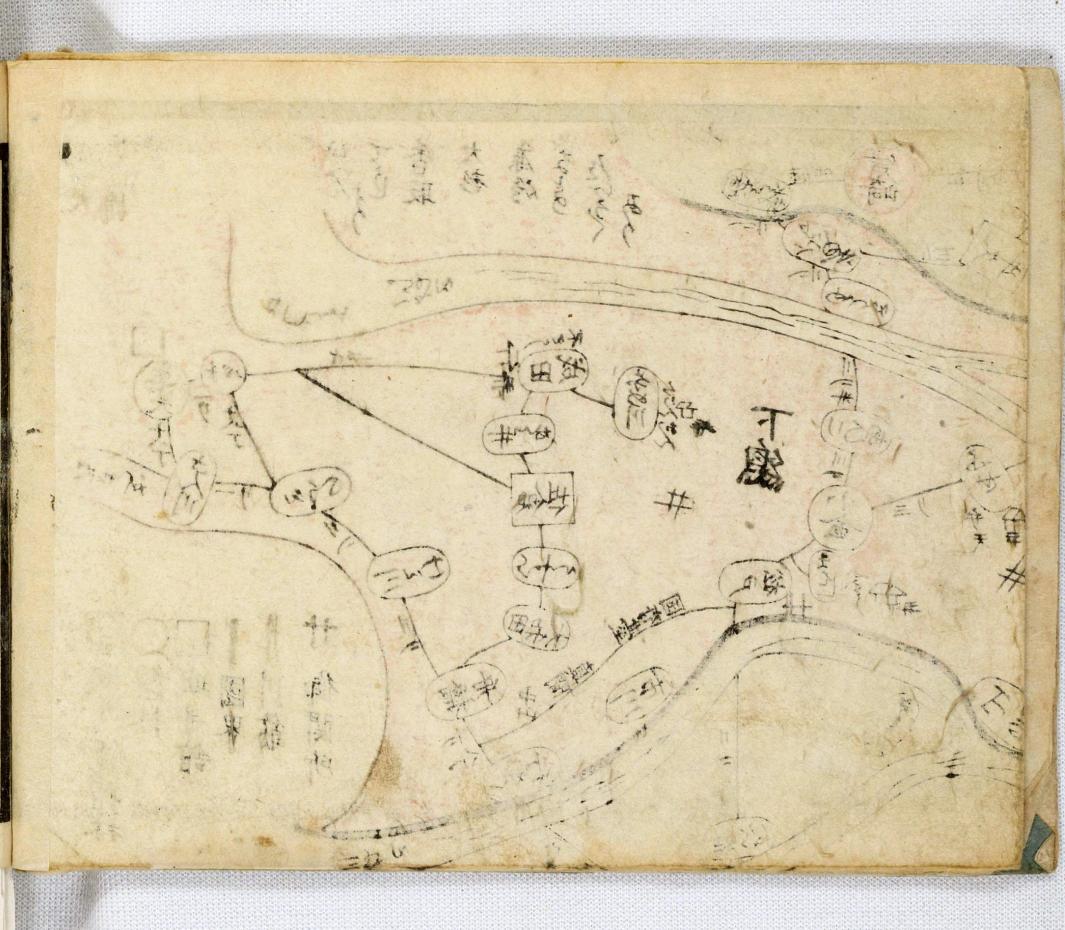


もう一度無む事じの親習  
國は湯を大作西ノ其ノもと算  
の至れり十あらもハハ檜林より  
をきかせ給ひ津嶋は名所と  
もゆくれ國よりをさせたまし  
住職さへあり、もう世々檜林  
黒物の像とえりてあるひたり  
ぬそとくゆん林を高門破壊  
の官割移譲國家が高門を  
ふへりあて猿山少溪の林の  
上へ又改へて木をも自らうかの  
元坐すゆとやくも幸甚ふ  
ゆくはとくよしとまくちもれ  
一昔のわざれきのむりく



をもつて。とくに。御詠記  
かうと。御詠記。たゞ。まことに。  
あらわし様。ある。うせから  
り。うそよ。ゆき。と。それ  
いまさらの。うこ詠。をおひ  
ちろり。うる。人のまゝ。年  
ね。かほや。の。ね。うそよ。うす  
よ。と。ひやまと。みみがく。み  
る。頭。あらう。う。む。月。おる。の  
う。おも。は。と。う。わ。く  
ゆ。手。

路記序



土門の人。す。専念弥陀の功。す。て。  
金。時。紫。金。蓮。上。ト。託。生。あ。り。偏。

小。高。祖。大。師。の。開。宗。弘。化。乃。め。み。た。ま。る。  
ふ。き。し。ば。遺。跡。と。巡。拜。一。助。の。す。め。  
廿。五。ヶ。所。は。靈。塲。定。り。う。と。い。だ。そ。ハ。美。作。國。  
を。初。先。讚。岐。國。す。お。一。渡。花。落。小。終。り。れ。  
東。關。乃。軍。ハ。其。望。あ。り。の。や。う。ど。遠。路。  
關。所。の。な。げ。た。あ。ア。そ。其。地。と。こ。靈。像。を。ぬ。  
う。く。す。が。然。い。大。師。云。遺。教。と。傳。く。  
念佛。を。お。ぶ。づ。こ。を。遺。跡。う。と。え。あ。れ。  
東。照。宮。沛。仁。徳。あ。ま。ゆ。く。ま。し。四。海。太。平。  
乃。基。と。開。か。せ。う。い。始。沛。代。佛。宗。門。ま。る。  
と。以。く。東。國。乃。内。よ。淨。家。檀。林。六。ヶ。所。佛。取。立。

括はましま。宗門乃知識と十方よりめざ小住  
き。先。真宗弘通の大靈場也。す。往ひ  
う。白旗の一流。數百年。傳法傳戒。ふかゆふ  
あき。故小笠餘州乃宗徒。員笈集會。一  
學業成熟の法山も。是則大師の遺跡す  
同じ。又本朝の靈山と謂。す。ほ。開山。い  
づから還來穢國。比大知識す。法義弘通。乃  
碩德。し。持。の。御。拂。あけ。か。す。  
代良導の本基。といら。す。宗門の縊素。  
此。生死。妄執の繩。と。す。不退無漏。乃  
淨國。よ。生。き。な。め。す。が。十八所。乃善知識と  
拜。謁。し。又。本願。乃大悲と仰。き。各山。は。本尊。戒  
礼。ま。て。め。く。先祖。親屬。先。だ。ち。靈位  
乃。增。進。菩。提。が。ま。る。自身。又。煩惱の家。を。出。

佛果の道。とす。もの。善巧。と。す。日數。か。く。ぬ。て  
み。も。め。る。海。山。乃。た。く。あ。夫。小。お。く。か。妻  
子。い。と。か。親。ち。ど。い。つ。く。じ。世。の。こと。り  
と。あ。り。く。い。と。し。と。り。ま。る。す。行。雨。う。き。タ。  
烟。ふ。曙。の。え。を。世。外。乃。情。よ。う。つ。て。長。山  
滄。海。乃。風。色。渡。口。孤。村。の。幽。景。も。真。如。實。相  
小。契。同。一。轉。法。輪。の。縁。や。成。ざ。き。欲。茲。小。予  
文。政。三。年。正。月。行。ま。る。飛。錫。巡。拜。し。各。山  
開。祖。は。功。業。と。仰。き。現。住。知。識。と。謁。禮。乃。道  
ゆ。き。ま。り。よ。此。記。と。ば。ぐ。ま。て。同。志。ふ。く。希。ハ  
有。信。乃。道。俗。隨。喜。巡。拜。を。ば。ハ。國。の。中。に。名  
所。も。だ。づ。む。す。て。と。ば。一。が。や。や。も。世。と  
ば。め。だ。づ。む。す。て。と。ば。一。が。や。や。も。世。と

風雲乃外よまとて。稱名の功もつり。國遠  
かくれば。一月の内ふとて。現當二世の勝益  
實よりがとう。實一

三縁山會下 常譽攝門謹誌

凡例

一順拜乃道定なり。出方所たり近きと。一番  
やまとめてゐるべし。今江戸縁山を第一番と定  
め。總錄官政乃冠利小づく極處。されば。番  
ど是づの順次不定む。江戸の住人。こゝは是小  
よをめぐる。田舎。其地小近き檀林。より拜を  
べ。道乃遠近多々。以下。予地理を別す  
といひべて。めぐらへ。今抄のまゝ小記を  
一瓜連常福寺。古利檀林也。ある。山主  
常向山常福寺小棲居あり。故小番ハ瓜連に  
定む。參拜の者ハ。兩山を至る。至  
一予。瓜連。宿する夜門。前名主某來。ア。豊  
譽大僧正。ア。セナ。マ。ア。記あり。ア。  
一冊である。予ひき見る。明和二年十月

十五日の未より。午一時とよ酒を臥。其記順  
と踏んよき。志る小山海。サ。予が多くも  
来マリ。よもやあとバ。今、いかんむすびと  
なく。唯能化住職の身や。草隣乃  
露せも。晚村の茅屋。卧座ト給て。を  
敬念し。予う思想乃先達もくと拜す  
一かの記中。小成田。鹿島。香取。筑波乃道を  
多一舟路あり。又坂東順禮所。悉くその  
近きと加。大山參里を添たまつ。予始此  
記と得バ。左よ道と取ざる。瓜連まぐ。様の心  
あり。一うば。やふ。故小始めよ。かの道哉  
あるべ。旅亭の風色。舟路と好む。ひ  
彼記よ。よ。まへ。

一。波記乃始ふ。十八首。乃歌と寺に配詠。ア。明和  
中ハ。此詠歌と板小書。各山乃本堂よ。かけ納め  
一やがん。今モ。三四ヶ山。小殘りく見。其の  
ちうき時め。き。貴賤道俗めぐり。一せき。  
宿く。定宿をあ。ア。其後、つとあくめ  
余よ。り。り。故小今其歌と始ふ。出。す。  
在家ノ衆。頌詠。ア。善巧と。西國ふ  
かの詠歌。等。一。歌乃讀人不知。セ  
ハ。ア。お。ア。大僧正。ア。ん。紀。

一大澤圓通寺ハ。寛永中より七八十年の程  
十分數少。一方の談林也。故小記小加。予  
巡拜也。ちう。あ。も。道程。幽遠迷雲。乃愁わ  
モ。ア。志。ふ。に。う。人。ち。是。を。除。き。瓜連。よ。笠  
間。よ。か。結城。小至。ア。一。  
一途中。よ。名。た。くる。宗門の寺院も。番外。よ。定矣。

其寺とのせ。他宗下くを靈場古跡も記す。名所八別と尋求され。通行の外ハ立よきに至らば。此記乃本志十八山よりばなり。

一 紫衣香衣乃差ハ。御當家御由緒小トテ  
ノ。差別ありと云ふ。今法久住利益衆生ハ。  
平等の故。尊卑乃思とあらず。ア。シミ  
乃山少リ十念より。山主と拜礼をば。一  
別。三縁山志二十卷。外小六檀林志十  
卷。述撰也。故小此記ハ唯道路とるべて  
縁由と詳よどす。見るよりの各山より事實由  
縁少一や。おりふと。され

豊樂寺大僧正伊方の記乃巡詣

第一番

三縁山

第二番

小石川 信通院

第三番

下谷 幡隨院

第四番

深川 靈巖寺

第五番

木所 靈山寺

葛西新宿、舟渡、走り

新宿

松戸、関舟渡有、走り

松戸

小金、

小金

東漸寺

走り

小金、松戸、走り、松戸

八幡、

八幡

舟橋、

舟橋

捨見川、

走り

舟橋、

舟橋

走り

走り

走り

せえ川ト 登戸ヘ

のぶとう 曽我野タカノ

さかのト 生實タツミ

武半

古丁

△第7番

生実タツミ

大巖寺

六

東金ヒタチ

五

成田ヒタチ

四

阿波アハ

三

江戸崎エドツキ

江戸崎エドツキ

大念寺

二

佐原サハラ

一

佐取サトク

一

津宮ツノミ

一

鹿島カシマ

一

ほこ田ホコタ

一

夏海カマ

一

水戸ミト

一

舟渡ボウダ

一

四ヨリ

七セブ

額田カタタガ

十

川合カワミ

十

川島カワシマ

十

川カワ

十

上岩頬カミイワカ

十

瓜連カボチャ

十

瓜子カボチャ

十

笠間カスガ

六

△第九番

瓜連

常福寺

四

十

十

十

十

十

十

大般若

七

かすみ 羽黒、  
もぐら 本新田、

しんた ま蟹、

まくろ 志の木、

あゆ つゝ波、

続波々 下妻、

下まく 阪沼、

一  
二

阪沼 弘經寺

結城

小山、

とやま 横舟、

よのじとく 岩呂、

一  
二

結城 弘經寺

弘經寺

弘經寺

一  
二

善導寺

二  
半

善導寺

勝願寺

四丁

四丁

淨國寺

一  
半

馬喰新田

新田、平方、

千把、

川越、

二十

舟渡

一ノ木

十二

第十六番

川越

蓮馨寺

扇子町谷

十二

箱根宿

十二

吉野山

十二

上野宿

十二

上野宿

十二

八王子

十二

赤坂

第十七番

十二

八王子

十二

橋本

十二

庄間

十二

里野谷

十二

八王子

十二

厚木本

十二

あつぎ

十二

版山

十二

いの山

十二

一ノ瀬

十二

一ノ瀬

十二

太山

十二

太山

十二

蓑毛

十二

三之瀬

十二

版和泉

十二

橋次

十二

橋次

十二

庚申宿

十二

かぶら

十二

八幡

十二

やまと

十二

南郷

十二

あさご

十二

江の峰

十二

舟渡

十二

長谷、

光明天寺、

鎌倉

二リ

第十八番、

戸塚、

光明寺  
百丈

是より八十里外の道中記の事本  
より凡道法百七十一里也

詠奇十八首

一番

弦ひて二のえすハまきる  
ますりとよみあんせうり

二番

立すりてかけやふらんくわ  
うれどけむもくらへ乃あ

三番

立すりてかくめくはれ底ます  
あくねまおきよにむすみ浅

四番

あふけたが代ましむきとく  
あくねまおきよにむすみ浅

五番

あくねまおきよにむすみ浅  
あくねまおきよにむすみ浅

六番

秋風よすいの葉よけう舟  
こじのとよる葉よけう舟

七番

ゆきの軒ちくさくまく  
あよむの軒ちくさくまく

八番

もくと葉よけ山だくまく  
もくと葉よけ山だくまく

九番

あよむの軒ちくさくまく  
きよく葉よけ山だくまく

十番

あよむの軒ちくさくまく  
あよむの軒ちくさくまく

土番

おひすりかけてやくふわひのあ  
おひすりかけてやくふわひのあ

十一番

おひすりかけてやくふわひのあ  
おひすりかけてやくふわひのあ

十二番

おひすりかけてやくふわひのあ  
おひすりかけてやくふわひのあ

古番

すもん

植置（まつり）——植りておせしものもせ  
ちかの木まよかのふもせ

去番

湯（ゆ）あきむとくわいたとくとく  
はちきよおけらる乃あくよ

士（し）どん

茶枕（ぢあしら）かくね方茶枕（ぢあしら）をぬをく  
たきやまきのがみ乃ひきく

大番

あまたへんとやめにいへんと  
まのうとふううめいへんと

檀林巡路記

第一番

三縁山廣度院增上寺

寺領

開山大蓮社

酉譽上人聖聰大和尚明德四年

起立上人ハ千葉从平氏胤の男母ハ新田左中

將源義貞朝臣の女也其トリ始ハ真言宗ト

テ三四代目少て淨土宗に改めらま（ま）一やを

應永中叢林となり第十三世中興觀智

國師の代慶長七年十八檀林御建立乃時

首座ト定らば國師ハ平山武者所季重（すゑしちう）の末

葉由木左衛門尉日奉利重（ひまつ）乃男なり

△本堂 千疊敷 本尊阿弥陀如來 惠僧都作

△護國殿黒木尊 奥の院と云本堂の後

△開山堂 當山代歴代上人大僧正と安置

熊野祠 本堂の右より一山の總鎮守より 請せらる  
鐘 関東第一の洪鐘より歴天上人の代鑄之

一切經藏 宋元朝鮮の三天藏日本無僅有り

此外參詣所地中にてめぐらしく 幸堂を始大門へ  
帰順左

不動明王堂 廣度院

本真言宗の時の本尊より故より別堂ミ安置

善光寺如來 常照院中 俗よあん堂  
とも云

火防地藏菩薩花岳院中別堂あり

秋葉社 神明谷福聚院の地中

鼠袋大黒天 貞松院安置

幸社稻荷社 三嶋中谷の隅

熟至堂 月界院中

淡島社 源流院中

車折社 鑑蓮社中

加封稻荷社 新切通富士見坂上

なまくら稻荷社 通元院中

出世辨才天社 白蓮池島此外三社有

子聖 りく清林院と林照院の向今柳茶屋の所  
焼失の後宝珠院と合せられ

此堂ト薬師如來閻魔法王合殿

圓光大師 妙定院中 開東廿五拜の第  
一番

豊祈稻荷社 山下東谷隅

茅野天滿宮 山下谷林松院安置

熊野木地堂 山下谷瑞花院

飯倉天滿宮 天神谷有 寶松院持

了譽上人堂 新谷酉蓮社

產子代稻荷社 觀智院の地乃續後

御別當所

惠眼院

寶松院

真乘院

瑞蓮院

通元院

最勝院

佛心院

安立院

岳蓮社

松蓮社

鑑蓮社

心光院

別院

妙定院

清光寺

惠照院

酉蓮社

安蓮社

福聚院

清林院

一經院

寶珠院

心光院

赤羽外境內

心光院

當院

大日如來安置

## 坊中

廣度院

觀智院

常照院

瑞花院

天光院

源興院

源流院

雲晴院

常行院

花岳院

淨運院

安養院

威德院

月界院

良雄院

月窓院

池德院

光學院

貞松院

源法院

源壽院

德水院

隆崇院

天養院

林松院

良源院

花陽院

昌泉院

瑞善院

清光院

所化方

學寮八十二宇

享保中迄百  
六十余軒

緣輪三十八人

扇間三十六僧

緣輪六十四人

以上三席百五十僧

大衆凡三千人實本朝靈山會上也

山內名所

極樂橋

圓山

觀音山

地藏山 翠柳井 鏡井

櫻井 彩文井 蹤躡路

白蓮池 望富坂 黃鳥井

夕日櫻 朝暉梅

此外畧之八景十二境廿四勝三十六奇あり畧す

三門、三季彼岸中日正七の十六日より開く  
正月御忌廿四日廿五日大會ありせ五百山内  
乃外府内知恩院末の寺院出勤す

七月十七八兩日ハ開山上人此忌大法會六日  
よハ府内御當山乃末寺出勤近年中興國師  
の鳳輦カクラと本堂ホウドウ招嚴會あり御代あり教譽大僧正  
大門 御成門 拏門 湿槃門い  
ひをも七々時過參請往來と禁す

右之外悉畧之

御成門と出。二番の道。愛宕前○青松寺曹洞  
宗。江戸三ヶ寺也。○愛宕山真福寺新義真言  
宗。江戸四ヶ寺。直院家。寺領百石。寛永カネル始  
俊賀贈僧正。愛宕山と勧請す。○北隣圓  
福寺。是すて院家同宗。江戸四ヶ寺領百石。  
本尊藥師如來。是う左横丁二丁余

(番外)

光明山和合院天徳寺

開山称念上人。天文年中。開起寺領合百石  
余り。天智庵と云。本尊阿弥陀如來  
○尾州家越前家其外諸侯檀家多一

地中

別院 永壽寺 不斷院 和合院

淨閑院 荣閑院 長元院

長谷院 知學院 摄取院

隨養院 知相院 淨本院

光學院 教授院

うら門と出虎御門と文○霞關○麿町三丁

目谷○牛込御門を出○諏訪町とう

第二番

無量山壽經寺傳通院

開山西蓮社了譽上人聖岡大和尚。應永年  
中開基。始の地ち極樂水宗慶寺あり。傳通  
院殿掩粧乃は時。今之地へ移る。上人智行  
兼備著述尤多く。淨土宗白旗流ノ中興と称  
し。また三月上人とも號を。白石志摩守義元  
乃嫡男なり。

寺領合八百七十石

御藏米共

本堂南向。中興廓山上人再興。う三四度

四祿今ハ御役殿あり。堂前乃古櫻樹あり。

△中門

銅鑄彫柱

△鐘樓堂

△開山堂

△經藏

△大佛堂

△鎮守社

△託藏主稻荷

△大黒天

△大方丈

長廊下の向こう

當山の庭。地廣く池深く。奇草佳木  
を植。幽勝の境景あり。

△別院

△緣受院

△處靜院

△淨臺院

△景久院

△慈眼院

△法藏院

△坊中

△瑞真院

△真珠院

△見樹院

△昌林院

所化寮

西谷東谷合十六軒。往世六十金字有」と云  
此外畧之

大門を出左へ水戸家横町角上

西岸寺

元祖大師鏡の御景あり。拜礼之。

春日町より。本郷五丁目へ出。湯島切通。天澤山麟松院妙心寺派の前より根生院。真言新寺領三百石坂下池端へ出。上野廣小路山下通り。下谷廣徳寺太宗寺より横町と北へ入二丁余

○第三番

神田新篤寺幡隨意院

開山智譽幡隨意上人慶長中開基。此上人諸國の寺院を開基甚多。後本山智恩寺より住す。故當山の寺號ゆ。寺領五十石本堂十五間南向。近世了碩上人一代紫衣と着せられ。谷中より法住寺新幡隨院と開興せらる。開山上人の道徳化益凡人乃く所あらず。

王譽妙龍。龍譽高天と云大龍神と利益。きりとん對流命を九州へ下向。後紀州遷化傳記世々多引小ば。かくに畧と

△開山堂中門の左

△鎮守熊野宮

△鐘樓堂

△妙龍水卵塔場入口有碑銘立之

坊中

智白院

惠眼院

源良院

正龍院

向旭院

學寮文政三年五月改

靈慙寮

圓成寮

法珠寮

亮雄寮

典鏡寮

靈音寮

了賢寮

戒珠寮

此外畧す

門を出報恩寺向宗東派の前より新堀乃

橋と通じ本願寺より通じ丁余

(番外) 田島山快樂院折言願寺

開山東譽魯水丈。小田原にて開基あり。

元和中引移す。

常憲院殿御時兩度成らしれ。桂昌院殿時

菩提所と定む。寺領四百石内五百石の  
四面寄附乃上。常

紫衣もす。本堂度焼失今土間南向本

尊歎吹阿弥陀如来

△中門 △鐘樓堂 △鎮守社

△地藏堂 △經藏

別院 安養寺 快樂院

安養寺八元禄年中佛建立。寺領百石内五百石の  
四面

今八官津侯本庄氏兩家にて修復内五百石の  
四面もす。

塔頭

仮宿院 迎接院 宗周院

徳性院 德壽院 西慶院

九品院 本性院 受用院

長安院 林宗院 称名院

仁壽院 寶松院 近年後藤氏  
絶家後廢絶

此外畧之

淺草通り御蔵前櫻寺より八幡宮の南

(番外) 東光山 西福寺

開山貞譽了傳上人。駿府より開基引移寺領百石。本堂凡三四度焼亡。文化後内五百石の  
四面再興

也。

△東照宮御宮

△辨天堂

△鐘樓

坊中

林宗院 智光院 存心院

法林院 林照院 真行院

長應院 源崇院

兩國橋を渡り廻向院

(番外) 國豐山廻向院

明暦三年正月乃太火。本郷丸山本妙寺より出火也。十万八千人余焼せ。菩提の爲建立。增上寺貴屋大和尚尊導師。小石川智香寺信譽上人と住持せ。別行常念佛乃大道場とす。此外寺中乃よけを。諸人乃見聞する所ゆえ。に畧て

一ツ目辨天前音人。總錄附。松藏。つま東廻り高橋。とくより二丁

(番外)

當知山重願院本誓寺

文龜元年。曜譽信公上人。相州小田原にて開起。六代貞蓮社大譽。文賀上人の時。英勝院尼の願少て。文祿四年。江戸八代洲河岸へ。され。慶長中馬喰町上寺町轉じ。天和三年。今之地。馬喰町も。朝鮮使の旅館となつて。數度。寺領三十石。

△觀音堂 △稻荷社 △石地藏堂

塔頭

法雲院 常照院 勝徳院

江月院 齡閑院 淨澄院

正應院 称名院 清心院

●第四番

道本山東海院靈嚴寺

開山檀蓮社雄譽。松風靈巖上人。寛永元年。今の靈岩島海中ノ洲。蘆原ノ所。地。みだら。

開基後あらわし地移上人生實かわらひ住すむ。凡寺院起立三十  
余ヶ所。後總本山花頂山けうとうざん入院にゆいあり。三世珂山  
上人の弟子。珂碩上人かせきじょうじん。奥澤九品佛おくざわくじゅうびぶつ乃開山  
なり。本堂凡三四度燒失。近ちかき頃ごろも十八間四方  
あり。其後又二度回祿まきゆ。今

△詔法社

圓光大師堂

稻荷社

△鎮守熊野祠

△開山堂

柳稻荷社

△大地藏尊江戸六駕

△勢至堂

△地藏堂

△放生池

△日月井

別院

雄松院

濟生院

長專院

坊中

正覺院

淨閑院

安養院

開善院

榮壽院

松林院

深照院

成等院

八庵

廣閑院

濟乘院

靈光庵

見松庵

潮江庵

吟松庵

清澄庵

臨海庵

所化寮

柳谷 櫻谷

錦谷等凡四十六宇徃古

八九十宇をあつて大衆一千三百人まで結集せ——とあり今も千數よぢか

此外畧之

△門を出敷やがたの内右

番外

龍德山光嚴寺雲光院

開山還蓮社徃譽上人信入潮呑大和尚。慶長十六年開起住すむと十二年。後京黒谷金戒光明寺きみつト轉うつる。雲光院殿一位尼公。馬喰町少て八千余坪と。公くわ奏達さつだつ乃上。起立あそあそり

△ノア

毛利長門守秀就福島左衛門大夫正則此時勅額二品  
鍋島信濃守勝茂台命より葬之良忠御筆と賜より。明暦三年元地今郡岩井

町へ轉せり。又天和二年十二月廿日乃火災。

後翌年此地へ移る。寺領五十石

塔頭 法龍院 淨德院

仙龍院 傳壽院 清心院

慈法院 清光院 淨心院

正覺院 良正院

右ハ當今廢絶

淨慶院 照光院 龍光院

一言院 常龍院 樹光院

長源院 養樹院 專受院

うち門を出東ども

番外 日照山專求院法禪寺

開山長蓮社心阿上人。文祿二年八代洲河岸小起立。次々馬喰町上寺町へ移り。天和中本郷大圓寺よりの火災火を焼失。後此地へ轉せら。

塔頭

宗心院 蓮乘院 玉樹院

專求院 貞照院 此五院今廢絶

常照院 南龍院 良信院

專修院

門を出。一丁左へ廻り扇橋へ出。是より報恩寺

橋日蓮觸頭北へ半町余

○第五番 常在山三尊教院靈山寺

慶長六年念蓮社事譽大潮上人駿河臺小草創あり。同土年寺領五十石と賜ふ。同十七年檀林へ加入られ。學寮三千余宇と建賜り。寛

永三年。湯島より移され。其後中絶。七世中興明  
譽。廓塗上人。貞享三年六月入院。元禄二年二月  
此地より移され。更小檀林を再興。わく

△本堂二尊と安置 △閻魔堂 △地藏堂

△觀音堂 △鐘樓 △開山堂

△大悲閣 △鎮守社

別院

照滿院 西接院

照滿院ハ知恩院三十六世真如院法親王  
尊空大和尚の尊牌所伏見宮御子

塔頭 良徳院 龍興院

徳壽院 靈性院

是までハ佛府内少く地名等多くなせん。  
以下ち村次順路委出モ

寺と出龜井戸村天神前。六目村。逆井渡  
是より申川と云。西小松川村。新町右へ。東小松川  
○西一の江今江渡有。前野村。堀江渡と渡今江  
も此所かそこを通り。此川刀根川。一條もういへ行  
てても同じひととく。三里。茶屋あり宿と  
徳とく。是まことに江戸。行徳とく。

舟橋ふき二里八丁

宿とく左ひだりは左ひだり。德願寺。御朱印十石。海岩山普  
光院と云。開山圓譽不殘上人。慶長三年開基。  
鴻巣勝願寺。妙典村。田尾村。兵庫  
新田。此邊海邊景色。はしき。二俣  
○海神此所を市川といふ。船橋町中右横丁  
小淨勝寺。御朱印十石。中興大超上人本所靈山寺開山  
舟橋ふき。五里八丁

町のつきあつて大神宮。御朱印五十石。神

主富上總と云。此下モ。左右小分る。左も成田山不動尊道。右房州海道也。右廻り。矢づ村。田村。鷺沼村。馬加村。此村も昔馬カリ陸奥守居城の跡也。次にみ川けみ川の北北へ二里道也。

海シマ道の景色也。安房上總の山之南の方小くまざう。左に村あり。砂地少々馬よのうそ。いさぎ村此所よ淺間の社。小高き所小在く。海中小島居シマジ。黒砂村カバニ。登戸アゲハ

生實イナシ一里半

のぞむ左行ハ千葉也。右海シマ道。安房海道也。寒川村。今井村。仙瑞村。

そこの村。そゞ野のてまづり左入大岩寺道也。

第六番

龍澤山玄忠院大巖寺

開山麿蓮社道譽上人貞把大和尚。寺領百石。永祿三年。原式部大輔平胤榮建立。次原も千葉の一門也。殊小大家也。内室を龍澤禪尼と名く。當山ハ原氏乃別館也。又生實御所も歸敬す。下馬禁札を下す。原氏後當國白井城。すこゝて新大岩寺今井寺。云々起立あり。當山ハ松林老竹境外深く絶勝ゼツセイ乃梵刹也。

△本尊 慈覺大师作 内佛本尊等靈宝多

△本堂

△鐘樓堂 △方丈

△山門

釋迦三尊  
十六羅漢

△鎮守社

三所

△表裏門

二ヶ所何より  
下馬札

右之外畧之

表門より生實まで八丁森川出羽守アマミあり

大岩寺より千葉へ出

千葉一里半

畠道多々。凡廿六丁より千葉寺觀世音。坂東札所なり。此寺ハ增上寺開山酉譽上人。真言宗也。剃髪給<sup>レ</sup>古跡<sup>アマカニ</sup>。坂上まで二丁。當村と千葉寺村と云。是より千葉へ八丁

千葉<sup>アマカニ</sup>のびと六丁

當所。妙見寺。真言宗寺領三百石。西より阿毘盧山。大日寺密乘院ハ。天平寶字元酉年。仁性菩薩乃開起<sup>スル</sup>。千葉家十六代<sup>ミサキ</sup>乃石碑あり。大日堂。奉納六字名號ハ弘法大師の筆<sup>スル</sup>。左子藥師堂あり

のびと船橋<sup>アマカニ</sup>まで前より出同

舟橋<sup>アマカニ</sup>松戸へ二里半

海神村<sup>アマカニ</sup>より右へ行西海神村。下宿村○。中山村右小正中山法華寺。日蓮宗一派乃本山<sup>アマカニ</sup>。本堂五重塔。經藏祈禱堂等<sup>アマカニ</sup>。鬼越村。平田村。是より右へ入まゝ山<sup>アマカニ</sup>廻る。真間山弘法寺。二王門。十羅刹女堂。鬼子母神堂あり。日蓮宗繼橋<sup>アマカニ</sup>ハ。門の前より<sup>十間</sup>金<sup>アマカニ</sup>此所本道と行。市川<sup>アマカニ</sup>弘法寺と通りぬけ。北<sup>アマカニ</sup>總寧寺<sup>アマカニ</sup>出で<sup>アマカニ</sup>。國府臺<sup>アマカニ</sup>安國山。總寧寺。曹洞宗。關東三ヶ寺の隨<sup>アマカニ</sup>。開山通玄寂靈禪師。境内六万九千六百坪余里。見氏生實御所と共小出張<sup>アマカニ</sup>。北条氏と對戰<sup>アマカニ</sup>。古跡<sup>アマカニ</sup>。寺<sup>アマカニ</sup>案内門乃中程<sup>アマカニ</sup>。うち門と出。畠道と通り。ハ切村。松戸宿。渡の東<sup>アマカニ</sup>方へ出る。則ち關所<sup>アマカニ</sup>一先<sup>アマカニ</sup>出

松戸<sup>アマカニ</sup>小金へ一里廿八丁

此所江戸より水戸への本海道なり。本村。根  
本村。竹花村。花島村。本郷村。新作村。  
中根村。馬橋村。不動尊万満寺真言宗少  
一坂道あり。

○第七番

佛法山一乘院東漸寺

開山行蓮社經譽上人愚庭運公大和尚。寺領  
五十石。天正中。城主高木修理亮胤則。同胤辰大  
口村。今古城跡あり。土石余傾より。檀那也。創立せり。

口村。今古城跡あり。土石余傾より。檀那也。創立せり。

△本堂土間 本尊 大師香衣尊像 法蓮信空作

△鎮守堂 △樓門 △總門

△地中

學寮もありもぐて  
此外ハ畧也

△淨嘉院 崇志庵 窓梅軒

△小金寺あびこ三里九丁

町のすぐれ。牛頭天王社あり。左合。平賀本土寺。  
日蓮宗の本寺八丁。この内村。新家村。向小  
金村。新本戸。是より原せ八丁あり。此原も。安  
房よりできて。長さ四十里。近一。地。横も  
所小さくて。廣狭あり。千葉より岩富乃所小  
て六里。其外不定。がまとの原。相模原。ひち  
原。桔梗原。をどと合とも及がへ。牧馬第一乃  
地。すき。遠近松原村立て。春草萌生。左小  
日光街道有。插村右小稻荷社あり。あく塚村  
。ねど。村。此邊右ふ手。沼見り。三四里。男の沼。云  
安孫子あいざね手。一里半

町より。此町左の方より弘經寺あり。寺領五十石是種  
特淨土宗

藤代二里

町より賑アヤシきこと江戸とはされく第一うちの吉

田村。小泉村。米田村。谷中村

龍崎二里

近きうちの八才の女。男なり。子と産一家有。

宮和田村。小海川渡アマカワ。小通り村。川原代村。

根本二里

入口よ。藥師堂。次ふ牛頭天王社あり。町ハ仙臺領  
す。町長一。もづれち左入。大ざく村。矢代村  
。長峯村。半田村。かみ村。塗戸村。此邊田ひ  
らけ村。つまちすり

根江戸崎二里

村より二筋道あり。左方アキラカ高き所コロ。君  
山村。松山村。此所より江戸崎。乃本道あり。下  
山路松原アラマツ。道ミタウガ。と聞。けども  
少一廻りアキラカ。村。べき。行。羽賀村。村田村  
。此邊能アキラカ。行。天王乃社の先。又左右道有。  
右木道。左新道。新道ミタウガ。丁ヨ

蓬行

第八番

正定山智光院大念寺

開山聖蓮社源譽上人。慶岩大和尚。西國惟任  
修理亮知光の三男。後關東アシカウ。觀智  
國師乃弟子。歲慶長中。當山を開く。寺領五十石

本堂。本尊聖德太子の作

樓門

總門ヅラド

開山堂

荒神堂

△三社殿 △地藏堂 △天滿宮

此外畧之徃世學墓土宇、ツトツ

當所町名。南大宿町。大宿荒町。后張町。西町不動院門前。下新町。上新町。横町。根町。切通。西丁。濱町。本町。不動院。天台宗ハケ檀林の内。寺領百五十石。南光坊慈眼大師の住セテ。寺領百五十石。又濟家禪寺小石五百羅漢あり。

江戸ノ里  
土浦へ五里

大塚村。君島々原。凡一里余。右小西方寺。君島村。追原村。高久村。右小湖。又。不動堂有。もし。右下。掛馬道あり。二宮社。青宿村。あみ村。岩田村右小。寶泉寺。左小天王社有。高津村。つきあい。愛宕山。此邊仙臺領と。土浦領也。あり。

稻吉へ三里  
土浦より

佛教大學所藏

入口。長サ三十六間。錢がめ橋と云有。大丁。次小もの。橋。だ。宿。中志。上。櫻橋。木町。中町。田丁。横丁。城。左。存。土屋相摸守。九方。平右。まよ。之。村。中ぬき村。清水村。西。波。筑。波。山。が被山。たゞ。づきて。近く見ゆる。

いきり  
府中へ一里卅丁

香取社。つち田村。左。弥陀堂。右。小觀音寺。

市川村。橋。り。り

府中。竹原へ一里九丁

昔多氣大掾と云。太名の城。今。水戸家代不流。松平播磨守が。と成。二万石町長。ま。あ。り。千手院真言宗。御朱印十五石。夫。ち

大河

二

右廻るをめぐる村。右よ光謙天皇宮。まこと先小

道鏡社あり

竹原す

片倉かたくら一里八丁

宿出しゆしゆを下り。松並木あり。古内村。村毎半  
よつゞ山よつづさんから山近ちかい。東北山ひがしきさん。又村毎  
小空家多々。人數年じゆねん減そぞりと云

かくくづ小幡おばた一里五丁

古和田村。稻荷社。西郷寺村

長岡ながおか一里半

山遠とほくて平地ひらちあり。荒村茅家の雞犬けいげん不  
在ふざ。人の手てがうも。かほ。かりて言語ごんご又また有あ。此邊しべんより湊みなとの近道ちかぢありと云

長岡す水戸みどり二里

津城下合。左小藥王院。天台宗。關東ハ檀林

乃内うち三宮前まへ橋はしと渡わたり。左小清岩寺瓜  
連末。津城つじや。左小みゆ。是いより上町下町じょうまちと分わる。  
右の方下町しもまち馬まと継つづ。町の末。右小湊道みなとぢあり。湊  
ハ船つきふなつきて。願入寺がんにゅうじ一向いつこう。先府君せんぶくんの連枝れんじ入  
らいと云。寺領三百石。如信ゆきのぶノ開基かいき也。境内うち小女めのわらわの御子みこ、  
少すくない。府ふより二里。當國第一とうくにだいいち。輻輳わふわの地じありと  
云。左廻り。岩城街道いわきかいどうと行

水戸みどり一里  
枝川えだがわ

是いより常福寺じょうふくじ道三筋有。上町下町通とおり也。  
今いま下町しもまちと行。町まちを出でる。川かわと舟ふねとそれ

バ枝川宿えだがわしゆ

田彦たひこ一里半

少すくない坂さかあり

田ひよ。向山常福寺一里半

宿の末。右岩城相馬乃街道。左太田の道  
す。左行松並木長一。境村。横堀村。○  
人松院。禪宗。石。毘盧舍那寺等右小あり

●九番之内

草地山淨鑑院常福寺

檀林所。瓜連是す<sub>二里</sub>然びに貫主在山所  
化をもに當所あつて。瓜連ハ院代持也。殊モ戸  
家佛菩提所は。末山乃支配す。當所う  
出も。兩所をは。別出も。當山御建立も。  
天和年中。瓜連甚清譽。林昨上人と開山  
も。常紫衣の綸旨は。此上人代り。源黃門義公  
當山を永世の傳菩提所は。定さ。故。瓜連  
乃山主引移。彼方ハ院代持は。

入口。吉水より黒門ま。百辛間程。夫り下乗橋

追百間程。又唐門追四十間程。是より山門追百間

余。山門。是追道幅八九間。より佛殿ま。三十三間。

余。山門。左右總松林。佛殿。翠松喬木。一樣。茂。梵閣諸堂。翠色乃

中小高一

△本堂 文化燒失後。再建。一

△法堂 九間半 本尊釋迦如來

七間半

△牌堂 五間半 鐘樓堂 鼓樓堂

三間半

△勅額 鎮守熊野本官 拜殿

鳥居

△唐門 辨天堂 真龍五社

大方丈 小方丈 庫裏

下乘札 下馬札 外廊下

寺領國主。圓成寺當山。共合四百七十石也。寺  
寶多。所化寮廿宇。程畧。

常福寺  
額田十八丁

ぬがご宿よ。右小阿弥陀寺一向仙人寺時宗  
引接寺常福寺未此所ハ額田久兵衛尉城跡す。是  
より古跡めづらき。其志もさへ常福寺より。  
直小瓜連行

ぬがご宿よ。太田行

太田一里半

渡川橋。川合村。磯邊村。此邊田畠つき道  
よ。右の方一里程向小真弓大權現の山有る。  
其山皆白石と云。太田合。右小白鳥山梅照院  
北野寺あり。本尊土面觀音。菅公乃作也云。

鐘銘あり

太田より  
瑞龍山一里半

太田法然寺。蓮勝永慶上人の舊跡也。上人  
乃像塔。是瓜連開山了實上人の師  
なり。樓門小時の鐘。本堂七間四方。外小觀音堂  
あり。太田町東西。左繁榮寺。鎮守八幡宮  
乃前り。右坂下。又道有。右棚倉道。  
左瑞龍山道。小野村。右白雲山旗櫻禪寺  
有。大櫻三株有。康平年中源頼義朝臣。奥  
州より歸陳の時。旗竿と此地す立ーと云。康安  
年中。佐竹義篤。一宇と立。大澤山瑞龍院を  
云。月山樞禪師と開山と。正保元申年。府君  
源威公。旗立古櫻下。今の寺と建給つ。○  
瑞龍村。水戸家御代と葬す。墳所也。  
右長尾玄龍の屋敷有。御廟所拜見。國  
人拜禮を願る時。御廟塚。御廟塚  
拜見の心あきり。太田より此所來るに及ばず。  
是より太田まで。也。又太田からまどて。行乞

思ひ。瑞龍村より右へ入。増井村正宗寺(廻る  
並)。是佐竹氏代より菩提所として。大伽藍  
乃禪寺なり。夫より稻木と云ふ。

瑞龍より  
か木二里

小野村不自記。大明神社あり。太田(か)。八幡  
宮の所。右へ入。山の寺(出る)。此所ハ義公の閑居  
一玉(い)。地(す)。文化(は)未。燒失跡。御建立あり。  
是(れ)山(さん)。昌寺(出る)。當山(まて)本國寺(派)  
の觸頭(つがい)。黃門(こうもん)義公(ぎこう)御建立。母(おやぢ)久昌院殿(くじょういんだん)乃御  
菩提所(ぼだいしょ)と定(さだ)かる。太田(か)。是(れ)まで三千町。學  
寮(がくりょう)寺(し)。四五町。山中(さんちゆう)。本堂(ほんどう)。間(ま)學寮(がくりょう)。寺(し)。麻爭(まそう)。訶衍庵(こげんあん)役者(えきしゃ)あり。

天神林(てんじんばやし)十丁

三門(さんもん)總門(ぜうもん)と出。三丁(さんじやう)にて天神社(あめじんしゃ)あり。次小佐竹  
寺(こさたけじ)三王門(さんおうもん)妙福山(みょうふくさん)と云。觀音(くわんいん)。板東札所(ばんとうさつしょ)也。鐘銘(かねめい)小。  
寛和(かんわ)三年(さんねん)。帝(てい)嚴願(ごんがん)。よりて。玄助(げんすけ)。僧正(そうじゆう)開創(かいそう)。土  
面觀音(どめくわんいん)と安置(あんじやく)。天文(てんもん)中(なか)焼(やけ)亡(なき)。宥(ゆう)亮法印(りょうぱいん)代  
源(げん)義(ぎ)公(こう)助(すけ)發(はつ)再(さい)興(こう)。あり。云(い)

天神林(てんじんばやし)三十丁

川島(かわしま)三十丁

(番外)

常不輕山莊嚴院高仙寺

瓜連(くわれん)三世(さんせい)明譽(めいよ)了智(りょうち)起立(きりつ)木堂(もくどう)八間(はっけん)堂(どう)の傍(わき)  
子三房洞(さんぼうどう)あり。窟内(くつない)六(ろく)。阿弥陀(あみだ)三尊(さんそん)。聖岡(せいがん)大佐(だいさ)  
竹(たけ)氏(し)の合戦(あつせん)。瓜連(くわれん)久慈(くじ)方(ほう)。士庶(しじゆう)多く逃去(とうそ)時(とき)。此(れ)  
至(いた)し。直牒(じてう)と著述(しょじゆ)の時(とき)。常(つね)不(ふ)輕(けい)菩薩(ぼさつ)形(ぎやう)と現(あらわ)す。  
筆頭(ひつとう)を照給(てうけい)。阿弥陀(あみだ)を改号(かいごう)。夫(め)り前(まへ)願(がん)行(こう)上(じょう)  
人(じん)。此(れ)來(き)て。却(むか)へず。小(ちい)き縁(えん)起(ぎ)別(べつ)小(ちい)き。田(たん)  
園(えん)十三石(じゅうさんせき)。國主(くにぬし)より除地(じよち)と玉(たま)へり

川上岩瀬(十六丁)

(番外)

御城山

誕生寺

了譽丈誕生地えんじやうじ。本尊とし。本堂六間四方別小弥陀堂二間半右小あり。此地こちに城しろありて。了譽上人じょうじんの父白石志摩守義元居城あり。ぞくめ光明寺こうみやうじと云。黄門義公今名小改り。除地七石を賜たま。

賜たま

上岩瀬(廿丁)

瓜連うりづな一廿丁

○九番之内 草地山 常福寺

開山常阿了實上人。延文三戌年起立。門前小白蓮塚あり。大檀那太田城主佐竹左馬頭義篤。法名春山淨喜大居士あり。當寺領脚朱印百石。總門より二丁余

△本堂十三間四方弥陀佛

△本地堂中央文珠尊左右各三間

△三門 △中門 △鐘堂

△總門前下馬札有

△裏門

當山檀林の内うち有あ。貫主向山むかさん住すせる。

故子院代法務むわいと司つかる。外ほか前まへ出でる。

鹽子しおこ一五里

磯邊村。志津村瓜連。志津大明神祭神まつじん。雄おの尊そん。社領百五十石。神樂殿拜殿。石坂の右小神主齊藤式部しきぶ乃宅あり。下江戸村。向山村。舟渡あり。石塚村宿しゆく。水戸うとう鳥山かみやまの本道あり。宿中右小金剛院天台宗真言。次小佐久山藥師寺あり。寺領三千石九間。天文丁未領。主辰壽丸祈願所ごんねんしょ。鑄鐘。本堂四面三重塔。愛宕社あり。中門右小有。大門だいもん通つなぬけ。青山村。

青山大明神。當國共社内。かの宮。おづ大  
明神。是より分社と云。小坂村。下古内村。上  
古内村。小内村。此所よ。水戸より笠間の道あり。  
○鹽子村。凡一里程。乃長き村。右。觀音。乃  
道。十丁。所より案内を乞ひ。是まで瓜連。石  
塚。乃外。食物。山深。山。山。他國乃  
往來。希。故。至て。幽寂の道。食物用意。下  
大澤。一里。但一茂木。行。五里半余。  
村。と。行。下野國茂木。出る。是本道。予  
ハ是より極。道。行。鹽子村。と。づれ。新  
道。と。き。本道の坂。初の手前。細道。左。入。半道。余。下  
野國。あ。村。よ。出。山中。乃。里。食物。是より入山  
路。よ。かる。坂八丁程。家。此邊。よ。く。き。凡  
江戸。と。出。此邊。と。第一。乃。嶮。難。所。よ。も。深。幽  
村翁里子。小道路。を。き。南北。遙。闊。の。孤。村。恙  
矣。凡下野。常陸。兩國。他國。乃。入客。す。地所  
不毛。ふ。ひ。人。子。と。生。よ。多。小。至。き。是。と。ま。び。ぐ  
と。名。け。赤。子。と。殺。モ。近。世。官。と。嚴。敷。仰。あ。て。扶  
持。と。た。ま。そ。る。其。惡。と。罰。一。給。つ。故。小。常。野。乃  
間。村。衰。田。荒。多。一。土。浦。と。越。て。後。今。日。ふ。至。ま。で。  
町。で。き。との。け。村。こ。そ。ば。土。蔵。あ。と。見。ざ。村。中。小  
數。家。父。す。ま。ぞ。て。空。草。深。一。鮓。田。村。小。山  
村。明。神。乃。所。出。る。時。茂。木。乃。道。中。と。ま。ぐ。ふ。又  
山。と。そ。真。福。地。村。小。出。是。よ。う。大。澤。一。里。余。や。云。  
真。福。地。村。よ。う。又。小。き。山。と。越。ま。大。澤。も。り。

開山良榮理本上人。名越流の高徳也。應永九年  
船橋郷<sup>ふなばし</sup>より起立の時。大澤八郎左衛門尉。山林田  
園<sup>たんえん</sup>と寄附<sup>よせふ</sup>。十世中興良迦性海上人の代。増子城  
主。増子右衛門尉紀勝清。大檀那<sup>だいだんのう</sup>にて。勅願所  
をささぐ。寺領田園附。此所<sup>こゝ</sup>うつま。上人。増子氏  
乃家老加藤玄蕃<sup>くわんぱん</sup>允<sup>ゆき</sup>ノ弟故<sup>う</sup>。是<sup>うち</sup>天小宗  
風<sup>ふう</sup>とふうひ。大檀林<sup>だいだんりん</sup>ある。所化集<sup>しゆ</sup>法問講釋夏冬  
斷絶<sup>だんぜつ</sup>す。故<sup>ゆゑ</sup>小本所靈山寺檀林中絕<sup>ぜつ</sup>内<sup>うち</sup>ハ。當  
山<sup>とうさん</sup>を替<sup>か</sup>て。其員<sup>ぐみ</sup>を加入<sup>くわいじゆ</sup>す。其後替<sup>か</sup>る。今も  
十八山<sup>じゅうはちさん</sup>すひ<sup>ひ</sup>く。縁山<sup>えんさん</sup>を寄託<sup>きとき</sup>ある。白旗流<sup>しらはたりゅう</sup>  
同一<sup>いつまい</sup>。寺領六十石往年焼亡後。再興漸くふあ。末  
寺凡合三百五十余

△本堂十二間  
四方

△鐘樓堂

△總門下馬札

△裏門

△觀音堂

△學寮十宇

△真岡大澤より

表門<sup>ひょうもん</sup>と出<sup>で</sup>。林の中を越<sup>こ</sup>。石岡村。中村。星の宮。  
此所<sup>こゝ</sup>喜連川<sup>きづれ</sup>の道有<sup>あ</sup>。次<sup>つぎ</sup>東原。鶴田村。東松  
村。若田村。東郷村。橋の右<sup>あ</sup>。大崎大權現<sup>おほさきだいせんげん</sup>荒  
が<sup>が</sup>大明神宮有<sup>あ</sup>

△真岡よし

△け田けだ二里八丁

真岡宿繁花<sup>しづか</sup>す。入口。右<sup>あ</sup>長蓮寺<sup>じょうれんじ</sup>寺領時宗。又  
般若寺<sup>はんにゃ</sup>寺領<sup>すいりょう</sup>天台宗。藥師堂<sup>やくしどう</sup>と<sup>と</sup>兼帶<sup>けんたい</sup>も。此所  
宇都宮<sup>うつのみや</sup>の通り<sup>おり</sup>す。是<sup>うち</sup>八木岡村。石島村。く  
げ<sup>くげ</sup>村<sup>むら</sup>と行<sup>き</sup>く。今<sup>いま</sup>高田山<sup>たかださん</sup>參詣<sup>さんしゆ</sup>のあ。宿中<sup>と</sup>  
左<sup>あ</sup>越<sup>こ</sup>。西沼村。物井村。横町村。過<sup>くわ</sup>原<sup>はら</sup>。小かく  
あ<sup>あ</sup>高田山<sup>たかださん</sup>の松原<sup>まつばら</sup>凡<sup>はん</sup>八丁<sup>はん</sup>見<sup>み</sup>ゆ。高田山<sup>たかださん</sup>嘉祿三

年親鸞上人建立。本堂<sub>十三間四方</sub>向よ弥陀堂<sub>六間四方</sub>樓門二間半。總門乃右小。寢釋迦堂庫裏有。門前禁札。天正二年六月廿六日所建也。以せ一身田兼帶。門跡一代一度。參詣有云。次小原丁余。來の川村。阿部品村。くびき村。禪宗芳全寺三拾石大地。

### 結城へ三里

三丁程かく。谷田貝宿。此所ハテの宮一乃街道町より。大澤より真岡より至る。此所ゆく食物すを。此町の中ゆきりて。西入。まが、村。鎌山村。えづく村。中島村。渡。有。づきも所乃者ふ道と問。遠近の損あり。是本街道あるを。

### 第十番

壽龜山松樹院弘經寺

開山團譽存把上人。本飯沼弘經寺乃八世也。多賀谷修理大夫。北条氏直合戦乃時。寺と北条乃為小。焼<sub>ト</sub>。大檀那多賀谷氏の請<sub>ト</sub>。下妻<sub>ト</sub>。つくれ<sub>ト</sub>。心<sub>ト</sub>叶<sub>ト</sub>。中島村。庵<sub>ト</sub>。結居<sub>ト</sub>。時。結城中納言秀康卿。長女卒去の時。導師<sub>ト</sub>招<sub>ト</sub>。其跡ゆく當寺と建<sub>ト</sub>。下<sub>ト</sub>。時<sub>ト</sub>。の寺山号と用い。の方と引移<sub>ト</sub>。也。寺領五十石。靈寶多き中。貉聖教有。當山<sub>ト</sub>。まご飯沼<sub>ト</sub>。有一日。良平<sub>ト</sub>所化有。二世了曉上人の時。修學辨舌執學。凡人乃及ぶ所<sub>ト</sub>。あべ後異形顯れ。立退時殘<sub>ト</sub>。聖教う。山主一代一度。拜<sub>ト</sub>。

△本堂 本尊惠心作

△開山堂 三間半

△觀音堂 順礼尊安置

△大方丈 小方丈  
庫裏

△鎮守三ヶ所 熊野秋葉稻荷

△三門 寶冠迦迦

△鐘樓堂 △地藏石佛

△大佛 南都大仏寺全觀迦迦也

△表門 結城家大手門。云今小紋所六紋也。

葵桐 沢淳左衛 酸漿かぶ大根と附有之

△裏門 △うり門

△學寮 軒

當所小結城山安穩寺 禪宗

○天女山光顯寺 曹洞

石碑是結城代々菩提所あり。又十丁余小く乘

國寺 禪宗五十石 あり。城主水野日向守一万八千石お

乃所細名物

△結城 城主

△船玉 一里

是より飯沼へ近道有。田畠の中。見かちる  
故に本道より。永横丁通り。小森村。

久保田河岸。此所少く鬼怒川と船少く見る

△船玉 一里

泊やわら。上野村。関本村。原あり。江村

△宗道 一大丁

町合小金佛大日如来二軀あり。井上内膳正

にて有。一万町三通有

△宗道 石下

△石下 一里半

町よりある。家より。此邊川ぞつづき

△飯沼 三重

大法村。み坂村。花島の渡。又西を

うね。横を牧村。羽生村。法藏寺。累が寺あり。

石碑。松譽不生妙繁信女。理屋松貞、信女。單到直入童子。有。先よ。阿弥陀有。是い  
かず。病少くも。かどあり。とて。願を。利益あり  
ゆて。毎日。あり。人あり。

●第土番

壽龜山天樹院弘經寺

開山歎譽良肇丈。應永年中。開基。大公。名城

右馬允孫う。其比大檀那。羽生彦郎經貞。渡邊豈前守吉定と始め。助力起立あり。その後多賀谷氏陣所どもく。北條氏の為よ焼せしと照譽了學丈。再興せしる。此時東九天樹院殿。佛菩提所と定られ。寺領百石。併寄附。又永紫衣仰付られ。

△木堂十二間  
金脚絆 △大方丈 △小方丈

△庫裏

△鐘樓堂

△御珠殿六間半  
公室乃尊牌閣也

△藥師堂

△開山堂

△鎮守社并拜殿

△中門

此門より下  
馬札有

△坊中三ヶ院

△學寮數字

總門名塚山す。北入中門まで凡十八丁。此内八丁  
ト五佛堂あり。淨國院と云。又二丁めよ地藏堂  
り。遊岳庵ヒ云。又三丁ト常念佛堂称名院矣。

又二丁北ノ袈裟流け楓葉有。又二丁東松原乃中  
愛宕山有。此社の向西小雷電社あり。此所横曾

根村境

飯沼より長や川渡有リ三里

門前より右虎嘯山。太江村。ねこ子村。此邊  
むゝハ皆沼なり。百年前より新田と云。神山  
村。ひい村。長や川二重渡有。是まで道あれどし。  
村へ入口。其外かく能聞べ

長や川  
金乃井一里半

荒ちう村。岡田村。此邊どう。寶珠花の道あり。  
もぐくとぬ川づき流さり。渡しままつたが  
道損あ。能村への次第と。きくなつぬ。一  
金の井ゆき。もぐく。二里

渡一とま。左(三丁程)又右(廻る)小なり。村。  
かまど村。此所茶やぶどう。上柳村。今目村。

次小。ちとくの北乃より出る。此所より關宿通日

光街道也。一ツよから。

橋壁はしのべ 岩付いわつき 一里半イリハ 慈恩寺じおんじ廻まわレハ 半道全速ハンドウゼンソク

橋の南みなみ。右まぎら。○袋村。中曾根村。矢島村。○此所より慈恩寺じおんじ。參詣道さんぐうぢ。慈恩寺じおんじハ天台宗。坂東觀世音順禮札所。本堂二王門。其外諸堂多多く。左小學頭の寺有。表慈恩寺村じおんじそん。岩付。入いり口ぐち。橋はし。左小城有。城王大岡主膳正三万石。宿中左ひだり淨安寺。綠山五世了聞上人開起。御朱印六十二石。又弥勒寺。大龍寺。其外寺院古跡多多く。次小加倉村。

●第十三番 佛眼山英隆院淨國寺

開山總譽清岩上人。鴻巢こうのす。當町城主太田氏房の請うけ。天正十五年。當山と開基。御朱印五

十石。其後阿部備中守菩提所と定。萬治二年正月。飛驒守。正保二年閏五月。内室正壽院共よ

葬う。あり。○佛眼舍利忌。毎年二月十五日法會

△木堂きのどう 銅瓦どうが十 本尊阿彌陀佛 安阿彌作

△大方丈 △庫裏 △鐘樓堂

△開山堂 △鎮守殿 △佛眼舍利堂

△中門 △總門まつもん 下馬札げまざ △坊中ぼうちゆう 學寮がくりょう

其外悉畧之

岩付いわつき 鴻巢こうのす 三里

加倉かくら。田畠たけ。道みち。右まぎら。深作村。九ヶ崎くわさき。村。瓦吹村。原市村。二宮村。上揚尾村。是い。中仙道の通とお出

●第十三番 天照山良忠院勝願寺

開山勅謚記。王禪師然阿丈。良忠大和尚。禪

師始執權北条武藏守平經時朝臣の請より  
て蓮華寺と鎌倉よ開基あり。時當國箕  
田郷と寺領よ寄附せしる。東鑑其後師領地  
よ下す。普く念佛と弘通す。當所松岡よ一  
宇と草創有く。始乃宗法相の師範す。一  
勝願院良邊僧都。報恩よかひ寺號とせしる。  
夫よう數百年遁世の先哲祖跡と仰き。雨露路の  
荒廢と凌々として總譽清岩土人。天正中此  
地よ引移起興す。一時岩付太田子耶氏房  
乃請ようかの地淨國寺と草創有く。當山  
と高弟圓譽不殘上人よ讓與せしも一ヶ残  
公常す。

神祖の御歸依も他よとよ。遂に再中興の職

よまく。此紫衣と賜あり。境内五万三千坪。金老杉  
直立梵閣とかみ翠影交接行客とづら。寺  
領三千石。牧野家伊奈氏等ノ墓あり。

△木堂 寛永十五年 本尊弥陀三尊

△鐘樓 應永亥七月鑄所かく結城中務大輔法名聖湖  
令嗣彈正少弔基光乃寄附結城正受庵乃鐘とがく

△大方丈 金間 御紋

△小方丈 銀間 御紋

△獅子廊下 何より中納言秀康卿の殿を賜り也

△二王門 △開山堂 此左右皆筋築地塀

△總門 下馬札より梅檀林ノ額とがく是より門と入る  
トニシテ

△地藏堂 別院學寮坊

中 有畧之

忍行田(三里)

かうのも。箕田村。此所右よ吹張山觀音堂有。  
渡邊源次綱の守本尊と云。追ふどう右(三里)  
左(仲)○三(さき)川(川)○や(や)び新田村○つむね村

○右埼玉道有左よりれひの上村天神社有。

下忍さぬ。荒町。中丁。下町。城ノ左入城主阿部

鍊丸<sup>石方</sup>當所<sup>よ</sup>遍照院<sup>真言宗</sup><sub>三十石</sub>清林寺<sup>禪宗</sup><sub>三十石</sub>

長教寺<sup>禪宗</sup><sub>三十石</sub>大長寺<sup>淨等</sup>の大寺有。此所毎

月一六市<sup>く</sup>。

新郷<sup>ノ</sup>二里

町<sup>ノ</sup>出<sup>で</sup>小櫻<sup>マサニ</sup>馬場<sup>ミ</sup>村。右<sup>ノ</sup>真觀寺<sup>眞</sup><sub>宗十石</sub>荒木村。天神社有。住吉村

館林<sup>ノ</sup>二里

町あく。別所河岸<sup>ノ</sup>御關所有。女人<sup>ヲ</sup>禁<sup>シ</sup>を  
らる。荒木<sup>ヲ</sup>すく<sup>がま</sup>。關<sup>ヲ</sup>も<sup>と</sup>。道<sup>ヲ</sup>も<sup>と</sup>よ

近<sup>い</sup>。利根川<sup>ヲ</sup>舟<sup>ヲ</sup>渡<sup>ス</sup>。川俣宿。茶屋多<sup>一</sup>

○大讚岐村。矢島村。青柳村。子来原村。新宿村。次<sup>ノ</sup>館林江戸口也。城<sup>ノ</sup>尾引<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>云。城主松

平右近將監當所名。荒方<sup>ハ</sup>谷越丁。足利丁。太宿  
丁。紺屋丁。新丁。立丁。材木丁。つぐ丁。かち丁。連雀丁。

肴丁。片丁等<sup>モ</sup>。此内<sup>ノ</sup>愛宕山別當興藏院<sup>時</sup>○聖天社<sup>モ</sup>有。あり地

院○館林山長福寺<sup>宗</sup>○聖天社<sup>モ</sup>有。あり東北乃方<sup>ノ</sup>半道<sup>ヲ</sup>。アド<sup>ガ</sup>池有。幡隨上人<sup>ノ</sup>龍神濟渡<sup>ノ</sup>靈境<sup>アリ</sup>。其北<sup>ノ</sup>巨法山善長寺

あり<sup>ノ</sup>。宗<sup>ノ</sup>赤井文六郎開基<sup>ナリ</sup>

第十四番

終南山見松院善導寺

始<sup>ル</sup>當所。土橋村<sup>ヲ</sup>有<sup>ス</sup>。建治年中。白旗流祖寂惠良曉上人開創<sup>ナリ</sup>。星霜移<sup>ム</sup>退轉<sup>ス</sup>。シテ幡隨上人アド<sup>ガ</sup>池<sup>ヲ</sup>。龍神<sup>ヲ</sup>降伏教化<sup>アリ</sup>。再び叢林<sup>ヲ</sup>アリ<sup>ス</sup>。慶長年中城主神原式部大輔康政。大檀那<sup>ヲ</sup>て興隆<sup>アリ</sup>。今<sup>ノ</sup>北条氏照禁制。山角紀伊守下知状

等。寺寶子あり。御朱印百石

△本堂 本尊弥陀由良信濃守源國繁願弘う

天正十七五年八月法印能源の記

△開山堂 △庫裏 △三門

△不動堂 三門の前子有

常子參詣多

△表裏門 馬札と立

柳原家松平家廟塔 此外寺中いく略之

△林石打 二里

太田口より。烟道とだり。松林と越。高根村。是より右。足利道左より行。諸所の道あり。多くは。右足利道下野道より。つら村。天満宮有是より。右道とる。左六中野

△太田 二里半

八重笠村。龍舞村。茶屋。明塚村。新島村。次より太田。宿長。毎月三八より市。日光例幣使道。高崎より。より来る。海道より

○第十五番 義重山新田寺大光院

大門より十八丁入。下馬橋まで十丁余。下馬札。開山然譽。吞龍大和尚。則ち觀智國師。乃高弟也。抑當院。慶長の始。御曩祖新田大炊助。義重。御菩提所。古跡たり。よりて。國師。并兩使。と差添。御尋究の上。開創。鎮守府將軍。と贈。を。龍公。と開山第一祖。や定め。紫衣。と賜。り。山林田園三百石。と御寄附の上。諸堂。と建立。なり。ある靈境。され。御當家。御先祖。御菩提乃第一也。謂。きものあ。

△本堂 東南向十六間四方

△御神殿

△鐘樓

△開山堂 龍公の靈驗多。一。△庫裏其外

△中門 平日參詣羣集も。△義重公廟墓

△石燈籠 大坂落城の日此門落成。吉祥門と称も

△此外畧之

太田より 熊谷へ六里

町中を南へ入。田畠の中道と越。飯田村。飯塚  
 村。矢島村。高橋村。古戸村。利根川を  
 舟ゆくも。上野武藏の國。北ひも。此所西北  
 に赤城山。淺間山。妙義山。西南に秩父乃峯。  
 遙よつてあり。蒼色翠岱。奇状風色。雲霧断  
 烟くまどう。一瞬乃く。一時乃景。かく  
 あく。詩客ハ吟賦。意とぞ。歌人ハ詠語  
 よ筆とぞ。况や南東の地。田畠ひしけ茅  
 屋。軒の松。荒村の鷄犬。至まぐ。眺望と  
 添ぞと云ふ。めぬま村。右。聖天堂  
 あり。周工巧。どきとみ。花柱。象鼻。近郷の壯  
 觀。あり。門前茶屋。商家多。一。弥藤村。  
 上根村。西村。下奈良村。もぐく此邊田中の  
 縦路。遠寺乃鐘と。數里よちづけき。雪朝  
 乃幽景。遙ふかすひ。風色。柳沼  
 村。肥塚村。次。熊谷横町へ出。門前町。谷  
 寺の大通。よしむ。左

番外

蓮生山

熊谷寺

次郎直實。初三百丁を領。私黨の旗頭と  
 あり。後。右大将家。隨ひ。宇治一谷を始。  
 武功多からず。父子合九千町。當時の九万石  
 乃領。直家と領を。宿縁の催所。元祖大師  
 小歸依。剃度入道。心称名の行者。成。  
 東國よ念佛と弘通。宇都宮頼綱。は。め  
 大名。も。勸諭。有。大師を坂東乃阿弥陀  
 仏。蓮生法力大法師。ゆ。め。か。と。當寺。せ  
 のか。大手成。庵。結び。子孫。も念佛。遺

状より書ひて。舊地あり。一とど。世乃戦ひ  
荒廢を。慶長年中幡隨上人。再び里民を  
モリ。舊主乃恩光との。専修乃功深たゞ  
說示す。遂に一淨刹也あらう。其後  
東照宮ゆり入御まし。寺領三十石外。祠堂  
金あらう。

△木堂南向  
左間  
本尊乃西より安置せる蓮生乃  
像も自作多く開帳料百銅

△蓮生敷盛乃石碑本堂乃  
西隅有

△地藏堂

△中門 △稻荷社本社拜殿鳥居  
燈籠

熊谷  
弥三

左衛門稻荷と云靈驗ばち  
トもさう毎日參詣多

毎月二七市。大門をとゞよ南より横町へ  
入る。是徃古鑑倉下。上野下野の本道あり  
熊谷。松山。三里

荒川を渡り此川江戸兩國の川也。村岡村。上恩田村。

和田村。上岡村。此所より妙安寺。宗馬頭。觀音  
堂あり平生參詣多  
門前茶屋あり。此邊諸所より秩父觀音  
の道有。凡三四里や。云々。山遠か。

積翠せきすい。ちくく。かひ。村ちく。い。きて。茅屋。烟。

。。。。兜山村。平村次。松山。宿。右。  
五六町入。箭弓稻荷社有。近年靈驗有。近  
村遠里江戸。月參多。門前茶屋  
多く。通ぬけ宿のそぐ出る。天王社。水  
川社。有

松山。江草。三里

道を左くる。右。野中  
道。柏崎村。古水村。友界  
。南戸守村。中山村。此邊田畠交り。青梅

秩父甲斐など。の閑道あり。次。江草村  
。江草。三里

## 江戸川越二里

福田村。あづら村。よざつ村。宿領村。下五ヶ  
村。次より下町。北町。とづき城下。入。高澤丁。  
西大手丁。江戸丁。城主松平大和守。

## ○第十六番

孤峯山寶池院蓮馨寺

大道寺駿河守政繁母寶池院蓮馨大姉。善  
提のめ。政繁開基も。開山感譽存貞大和  
尚。則山角氏の子。政繁の従弟。是觀智國師  
乃師範也。故小開創の時。はとごく乃地を  
よせ。か。豊太閤。北條家征伐。乃後。い  
さう。乃寺領との。それも。

大神君御朱印。改め賜。す。豊公。寺

門。乃由緒。て。闇届。禁札。と。下。北條家。大道

寺氏。山角氏。乃寄附。あ。一。寶永

四亥三月。享保二酉土月。安永三午土月。と數度  
乃回様。小灰燼。一。當今傳。も。の。まれ。か。

△本堂

度。焼失當時堂  
廿三世就善文再建

△鐘

同断  
五世就善上大岱

△地藏堂

度。燒失當時堂  
廿三世就善文再建

△五智堂

△熊野宮

度。燒失當時堂  
廿三世就善文再建

△辨天堂

△加祐稻荷社

度。燒失當時堂  
廿三世就善文再建

△中門

下馬札  
立之

△坊中學寮有。あ。畠也

川越八王子へ九里余

町と南西へ出。ふれ。原道二里半程。あり。次  
入間川舟渡。扇町屋村。是。一本木村。此  
所江戸より青梅の海道あり。此西より大嶽山  
有二里。箱根崎村。二里。島村。二里。さ入村。  
も崎村。次小渡有。是玉川。上水。ある。次  
八王子。西北。横丁。入

第十七番

觀池山往生院大善寺

開山讚譽牛秀大和尚。め瀧山村より開起あり。天正十八年北條陸奥守平氏照没落後此地へ引取。故ふ古名より。當山の地名ゆゑ。瀧山村。是より二里西北乃方より。寺領十石。後ふ新境内と賜たり。津戸三郎為守墓所あり。秀源立川能宅ち子なり。

△本堂 東向十三間四方

△方丈

△庫裏

△南北の二寮 其外畧之

大門ノむろひよ。極樂寺有リ御朱印。八王子。横山宿。八幡宿。など合を三千軒余と云。甲府道第一繁華地。毎月三八市。是より鎌倉道二つ。藤澤戸塚。出もよ。

△片倉 一里

△打越 半里 坂

△小山 一里

△小山田 半里

△木曾 二里

△原町田 二生

△原町田 一里

△長谷 三里

△藤沢 二里

△戸塚 二里

△戸塚 出ば鎌倉 二里。本道より。藤沢 出

△江乃島 回りくよし今テ藤沢の巡路と記す。藤澤山清淨光寺ハ元祖大師四世西山國

師高弟聖達上人より上豆邊上人と遊行十三派乃祖也。其弟子他阿真教上人乃開基總

本寺す。寺領百石。本堂。方丈。二王門。其外大  
廈。高樓。當國第一の靈地す。小栗堂。其外名  
所多。門前乃川より南東入。江乃島へ  
一里。江の島辨才天。諸人乃常小參詣所少參。  
小記す。又より鎌倉二里。かまくら又人の知  
とあらゆ。諸書より出。又小畠も。七里濱十四  
丁。了ひ稻村より切通とも。長谷寺觀音堂  
前。出別當。慈照院。慈眼院。御朱印地光明寺  
末。次小大佛。清淨泉寺。高德院。關卅  
三ヶ國。總國。寺。是を光明寺客末なり。  
ゆが濱。びひ大八丁。本堂。屋根。う  
ろ乃山。出。セ。タ。の。教。

## 第十八番

天照山蓮華院光明寺

開山勅謚記。主禪師ハ。後嵯峨院深草院の戒  
師。あり。時乃執權北條左近將監平經時。初免  
佐介谷。と。蓮花寺。名く。後光明大師の  
出現。奇瑞。よつて。寺号を改め。方丈と蓮花院  
や。称。八世觀譽。祐崇上人の時。永世紫衣と  
賜。十夜の法要。洛陽真如堂真正極樂  
寺。うつも。縪言。修。所。乃  
引接。弥陀經念佛。慈覺大師乃将来。近  
來觀。上人十夜と中興。本朝無  
二の大法會。允當。六泓の根元地。る  
ゆ。數百歳。經。と。寶庫。水火の愁沈  
小至。らべ。其儘。什器の。あ。實。規  
光。と。謂。一。

△本堂。西向十三間四面。記主禪師。委置。

△弥陀堂。同並。北土三間四面。記主禪師。委置。

△大方丈。△小方丈。△庫裏。

△三門 勅額 天照山

△祈禱堂 勅額

△辨天堂

△經藏

△鐘樓 元弘中  
西鑄

△總門

△千手院

△蓮乘院

△學寮數字

此外。岩穴の上小地藏尊と安置す。又寶庫も山乃半腹小立。うう山を天照山也名す。龍燈松也。内藤氏延岡侯湯長井侯の墓所。南乃方よあ。

寺と出八幡宮まで十八丁。おれより戸塚(出ま)三里。東海道也。建長寺。圓覺寺等乃大伽藍と拜參也。一。金澤(かみざわ)小廻らんやせば。朝比奈乃切通(さくどおとおと)とまくへ。杉本觀音淨智寺キドヨ諸(さく)べ。金澤(かみざわ)二里。瀬戸明神乃前より能見堂(のうじどう)。坂と登り。称名寺と右下(しも)く。程ヶ谷まで四里余。程ヶ谷宿(しゆく)一出ま。東海道少く。江戸日本橋まで六里余

或此記小よりて拜參をまく。予よ問ひ。寺の大小(おほ)い。云。予。亦。云。夫。我宗も。む。どう。娑婆(さつば)とかの宿(しゆく)りや。教(きょう)て。専(まつ)ら西利(さいり)の淨土(じょうど)と求む。祖徳皆(そくとく)其志(せいし)。住(すむ)。他(ほか)乃(の)禪台(ぜんだい)言(い)ふ。宗(むね)は。傍(わざ)藍(らん)成(せい)美景(みやうけい)。小(こ)づく。山(さん)と絶(ぜつ)。勝(かつ)小(こ)撰(しゆん)ひ。寂(ぢやく)光(こう)り淨(じょう)土(ど)と即(そな)れ。に異(こと)也。又(また)が。愚(ぐ)盲(めい)無(む)智(ち)短(たん)才(さい)。本(ほん)願(がん)名(めい)號(ごう)も。がく。念佛(ぶつねい)乃(の)功(こう)を。かず。ね。臨(りん)終(しゆう)小(こ)紫(し)金(きん)の蓮(れん)臺(だい)。託(たく)生(じゆう)を。まく。教(きょう)導(しゆ)。知(し)識(しき)。建(けん)開(かい)。ば。他(ほか)宗(むね)の美(うつく)し園(えん)を。り。厭(きら)ひ。乃(の)宗(むね)風(ふう)。混(こん)ず。事(こと)な。か。ま。一。云。

詠哥(よこ)か。時(とき)乃(の)廻向文(ごんじゆぶん)

光明遍照(こうみやうへんじやう)

十方世界(じやくがく界)

此文(このぶん)と並(なが)く  
念佛(ぶつねい)会(え)

念佛衆生 摄取不捨 送安樂

次二

先祖代々一切精靈速證菩提

次三

兩親眷屬二世安樂及見聞覺知  
有緣無緣法界一切衆生平等利益

次四

極重惡人無他方便唯稱彌陀得生極樂

次五

願以此功德 平等施一切

同發菩提心 徒生安樂國

おひづるとりもんとおりづく

年号月日 同行何人

天下和順 奉順拜關東大檀林爲世安樂

國豐晏安

國所地名 名誰

又一よづらを負ひふうのれ

天下和順 年号月日

奉順拜淨土靈場檀林關東大所世安樂攸

國豐民安

何州何郡何村

誰名

ムロの子

一十八のかゆも大蛇のまゝまゝ  
十念とゆひ寺主とねどーー

一梅千施すぬひたび扇もあがみ  
やだぞ などハ用意すべし  
一船渡りふもひそ川よまつてやまじ

大般若

三七

一 生の道もあれども付前後の方より  
生まうありセ。村へきてまうひ道の  
あらき。一さむ次財の道ふとある

一道中ふとく心をもとめ同様なひよな今  
又もまかとすとび道まつはやかか  
みあらうやまうふ心えらく念佛日  
課をせば万事もうもらへるといひ  
右の外その分限よ應へ用ひす

心より念佛塔の心え

折りふ生世。生死の海ふ沈み。多の世は  
中ふゆふ。心とみ是事とが。五戒  
十戒はたゞつむか。内もととひ。世の命と  
どう。人間の命は。が。どうぞねぐ。あ  
きはあづ。などとむきが。色をもす。いふも

佛教大學所藏

善よりとす。あは。よへひと起やう。今この  
檀林とめぐ。モ幸も小罪障とんけ。道  
心とす念仏と。滅罪生善の一助と。次  
さすがつまどもあ。心と柔軟なり。善惡  
とおもとすて。唯名号と。淨土往生乃  
萬よぢと一心よ歸命。ニ世よりよ淨陀小  
まうせまうん。三心と。冥界。四恩を報  
佛と見まん。もじの念佛と。

五の菩薩の来迎ぶりづ。六道とはもれ。

七宝は國坐。八徳池の九品蓮上よ。十方を

佛と見まん。もじの念佛と。

緣山北溪

在心室藏

大正

著者

弘所 芝神明前  
和泉屋新八



